

まるわかりQ&A

最難関といわれる医学部受験。
受験を志したときからまず知っておきたい
基礎知識を専門家に聞いた。

文/石村紀子 イラスト/ナカオテッペイ



医学部専門予備校
クエスト 代表
長原正和さん

長年、医学部受験に携わり、その豊富な経験から受験生に親身な指導をしている。塾生一人ひとりに対して現状分析やアドバイスを行う面談には定評がある。



医学部受験 富士学院
学院長
村田慎一さん

毎年多数の医学部合格者を輩出する富士学院で学院長を務める。全国の高校や媒体から依頼を受け、医学部受験に関する講演を行い、高評を得ている。



Q1

医学部進学はいつ決めるのがベスト？

A

早いほうが対策しやすいのは確か。でもベストタイミングは人それぞれ

医学部受験は難しい。試験もさることながら、覚悟が必要だからだ。医学部受験イコール将来の仕事で「医師」と決めなければならぬ。医学部に入らなければ医師にはなれないが、頑張れば必ず合格するという保証はない。何浪もして結局は入れなかった人も少なくない。それでも医師になりたいという強い意志と覚悟がなければ、医学部受験は乗り切れない。その覚悟が持てる時がベストタイミング、結局は人それぞれだ。

「もし早くにその覚悟ができたのであれば、早くから準備したほうが対策を立てやすいのは確かです。一般的には、現役合格を目指すなら、高校2年くらいから受験勉強

スタートが理想。もちろんそれまでの学習がきちんと身についていることが前提です。基礎が足りない場合は、浪人までを視野に入れ、一から計画的に積み上げたほうが結果的に早い場合もあります」(長原さん)

「おぼろげだとしても、医師という選択肢が頭に浮かぶのなら、その時々の学校の勉強をきちんと積み上げておくことです。基礎ができていれば、いつでも受験対策の勉強にシフトできます。そして大切なのはなにより強い意志と熱量です。結果、浪人することになったとしても、必ず今年合格する！という姿勢で臨むことが大切です」(村田さん)

Q2

医学部受験が難しいのはどんな点？

A

全教科まんべんなく高得点を取らなければならないところ

医学部受験が難しいと言われるのは、医学部自体の数が少なく、定員が少ないからだ。志望者は成績上位者ばかりで、必然的に高得点での争いになる。他学部の場合、難関校であっても得意科目がずば抜けていればチャンスはあるが、医学部はそうはいかない。全教科まんべんなく高得点を取らなければ、合格することはできないのだ。

「医学部の試験は、難しい問題が解ければ受かるものではない。1点の差が合否の分かれ目になるので、苦手科目や穴があったら勝負になりません。誰もがわかる標準的な問題を絶対に落とさないことが肝心です」(長原さん)

国公立大の場合は、まず共通テストの結果が重要になる。全国上位大学合格者の得点率平均は約9割で、全国50大学中45大学で得点率約8割以上。6教科8科目すべてで高得点を出さなければ到底及ばない。まずはそこが目標だ。出願後の2次試験も難関だ。基本は英語・数学・理科2科目が多いが、共通テスト高得点者の少数精鋭たちとのハイレベルな戦いになる。

私立大の場合、受験科目は英語・数学、理科2科目が一般的。国公立大に比べれば少ないが、クセがある問題が多く、問題だけ見れば国公立大より難しい大学も多い。アドミッションポリシーに合う人材を選別するため、趣向を凝らした出題が多いのが特徴だ。

また医学部の試験は、国公立大、私立大ともに、全般的に問題数が多く、深い思考力を問うような、設定がややこしいものが多い。大量の問題を正確に、速く解く処理能力が必要となる。

「あやふやな理解ではまず解けません。基礎をしっかりと積み上げ、出題の意図を正確に把握し、どう解くか、なぜその解き方がよいのかを説明できるまで理解しておくことが必要なのです。さらに、医

学部受験が難しいのは、学力だけで判断されるわけではないこと。近年、人物評価がより重視される傾向になっています。実際、科目では合格最低点を上回っていたのに面接で不合格になる受験生が一定数います」(村田さん)

学力、人物ともに優秀でないと医学部受験は勝ち抜けない。そこが医学部受験の難しさだ。

現役のときは正直勉強してなくて、浪人になってから真剣に勉強してこまできました



多浪は不利になる？

医学部受験の場合の多浪とは3浪以上を指す。面接で理由を聞かれることが多い。きちんと自分の言葉で説明できれば不利になることはないで安心して。

Q3 中学から高校まで、どう過ごせば医学部合格に近づく?

A 学習習慣をつけ、学校の授業をきちんと理解すること

はつきりと医学部受験を決めていなくても、選択する可能性があるので、まずは学校の授業内容をしっかりと積み上げておくことを考えよう。大学入試で出題されるのは、基本的には高校までの教科書の範囲。そこでの基礎が、応用発展問題を解くことにつながるからだ。

「難しい問題を解く練習をしたがる人がいますが、医学部受験では、標準問題を確実に解ける人のほうが合格します。逆に難問が解けても標準問題を落としたり受かりません。だからまず、すべきことは教科書の基礎をしっかりと身につけること。原理原則を理解することです。思考力も重要なので、中

学校の定期テストで確実に点を取ることは学習効果の目安になるのでおすすめで。こうしたテストできちんと結果を出し、評定平均を上げておけば、推薦入試の機会も得られる。医学部でも推薦入試枠は増えている。受験機会を増やせるので積極的に考えたい。

部活動や習い事は、協調性や其感力を養うのに役立つのでやったほうが良い。そこから何を待たのかを語ることができれば、面接時

学校の定期テストで確実に点を取ることは学習効果の目安になるのでおすすめで。こうしたテストできちんと結果を出し、評定平均を上げておけば、推薦入試の機会も得られる。医学部でも推薦入試枠は増えている。受験機会を増やせるので積極的に考えたい。



オープンキャンパスにはいつ行く?

高校1年や2年など、時間の余裕のあるときに行くのがおすすめ。学内を見学しておくことでモチベーションも上がるし、面接時のアピールにもつながる。



学校の定期テストで確実に点を取ることは学習効果の目安になるのでおすすめで。こうしたテストできちんと結果を出し、評定平均を上げておけば、推薦入試の機会も得られる。医学部でも推薦入試枠は増えている。受験機会を増やせるので積極的に考えたい。

部活動や習い事は、協調性や其感力を養うのに役立つのでやったほうが良い。そこから何を待たのかを語ることができれば、面接時

学校の定期テストで確実に点を取ることは学習効果の目安になるのでおすすめで。こうしたテストできちんと結果を出し、評定平均を上げておけば、推薦入試の機会も得られる。医学部でも推薦入試枠は増えている。受験機会を増やせるので積極的に考えたい。

部活動や習い事は、協調性や其感力を養うのに役立つのでやったほうが良い。そこから何を待たのかを語ることができれば、面接時

Q4 地域枠や推薦入試は利用したほうがいい?

A 卒業後の働き方などよく調べることで、条件が合うなら積極的に利用して

地域枠とは、卒業後、指定の地域や病院で一定期間(たいていは9年)勤務すると学費が免除される制度のこと。高額な学費がネックとなっている受験生にとっては魅力的な制度だが、利用に際しては注意が必要だ。理由は、卒業後の診療科や勤務地が限定されてしまうこと。納得して利用したとしても、医学部で学ぶうちに、違う働き方をしたくなる可能性もある。勤務後に留学したくなるかもしれない。卒業後のキャリア形成に影響するのは間違いないので、利用する際はよく考えてからにしよう。地域枠は大学ではなく、県や地域がおこなっているものもある。大学のパンフレットに載っていない

場合もあるので、行きたい地域がある場合は調べてみよう。

推薦入試の募集割合は、現在、国公立大は3割、私立大は2割。一般入試より試験科目が少ない、倍率が低いなどのメリットがある。受験機会を増やすためにも現役生は積極的に利用していきたい。評定平均は国公立大の場合は4・3以上、私立大の場合は4・0以上としているところが多い。ただし、医学部は推薦でも落ちることがあるので要注意。その場合は一般受験をすることになるので、いずれにしてもしっかりと受験勉強は続けておくこと。また医学部の推薦は地域枠になつてきていることも多いのでよく調べよう。

Q5 予備校はどう選ぶのが正解?

A サポートがどれだけ必要かで判断して

大手予備校の医学部コースか医系専門予備校か。医学部受験に必要な勉強を教えているという点では同じだが、サポートには大きな差がある。大手予備校は1クラスあたりの人数が多い分、学費は抑えめだが、個別のサポートは手厚いとは言えない。基礎がある程度固まっついで自分の弱点が把握できている、自分で学習計画が立てられるなど、自己管理ができる人には向いている。

一方、医系専門予備校は1クラス10人以下のところが多い。質問もしやすく、授業時間も多し。一人ひとりに担任がつき学習進度や弱点などを個別に把握、その都度修正し、ベストな対策を示してくれる。出願校選定の際も、

医学部受験で忘れがちなお金は?

複数校受かった場合、第1志望校以外の入学金には要注意。私立大学の初年度納入金は1000万円を超える場合もあり、辞退を申し出れば授業料等は返還されるが、入学金(100万~200万円)は戻ってこない。ちなみに医学部の受験料は6万円と高額だ。

Q6 国公立大受験のポイントとは？

A まずは共通テストを突破。2次対策は大学ごとの特徴をよく精査して

第一関門は共通テスト。ここで高得点を取ることができれば出願先の幅が広がるが、点数が取れないと出願しても厳しくなる。2025年度からは、22年からの新課程に対応した内容となり、教科や科目の再編など大幅な変更がおこなわれるので対策が必要だ。新しく加わる教科「情報」は、初年度ということもあり、各大学の扱いはさまざま。

「例えば広島大や宮崎大は千点中百点の配点がありますが、北海道大、徳島大、香川大は、受験には必須なもの配点はゼロとなっており、大学によって差があります。今後、配点の変更も考えられますので、自分が受験するときの最新情報をきちんと知っておくことが

大切です」(村田さん)

ほかにも数学では数学Cが加わり1項目増えたり、現代文は大問が一つ増えたりするのに時間は10分ずつしか延びなかったり、問題数が増えたことで配点が変わったりなど細かい変更があるので情報を精査しておくことが必要だ。

「近年、共通テストはどの科目も問題が長くなっています。出題意図や問題を正しく読む力がより必要になっていと言っています。よう。問題量も多くスピード勝負、瞬発力と正確性が求められる試験です」(長原さん)

2次試験の出願校は共通テストの結果次第なので、どんな点数でも慌てないように、学力相応の大学、少し上、少し下と3校程度を

選んでおくと安心だ。

ポイントは、自分と相性のいい出題傾向の大学を見つけること。例えば過去問を解いたとき、高点数が取れるのは相性がいい証拠。その点数は合格ラインに達しているか、頑張れば到達できるレベルか確認しよう。塾や予備校で自分に合う大学を聞いてみるのもいいだろう。

また、国公立大の試験は一般的にクセがないほうだと言われるが、



共通テストはどのくらい取ればOK？

共通テストで目標としたいのは、全国上位校であれば9割。2024年度の合格者平均点(得点率)を見ても、50校中45校は8割を超えている。これ以上の点数を取ることが、国公立大合格のカギとなる。

医学部だけの単科大学や歴史的に医学部が強い大学はクセの強い問題を出す傾向があるので、よく確認しておこう。

国公立大は前期・後期合わせても2校しか受験できないので、私立大も併願するのが一般的。共通テスト利用での出願も含め、できるだけ受験機会を増やすことを考えよう。

Q7 私立大受験のポイントとは？

A 国立よりクセが強く難しい問題が多い。自分に合う大学を選ぶこと

私立大の難易度は、ある程度学費と相関がある。一般的に、学費が安いほうが偏差値は高く、合格するのは難しい。しかし、偏差値が低い大学が入りやすいというわけではない。医学部受験では、滑り止めになる大学などないのだ。

受験科目の中身や配点、出願要件などは毎年細かく変わるので調べておきたい。受験生本人が志望校全てについて調べるのは至難の業なので、詳細に分析している予備校に頼るといいだろう。

私立大の受験は、例年、共通テストの翌々日からスタートする。前期はそこから約1カ月の勝負だ。この期間にピークを迎えられるよう学力と体調を整えたい。

上げれば必ず受かるわけではないのが医学部の難しさ。面接や小論文対策もおろそかにしてはいけません」(村田さん)

「受験校対策の前に、まずは全教科まんべんなく、どんな問題でも解けるような学力を身につけるといい基本も忘れてはいけません。ただでさえ医学部は受けられる大学が少ないのですから、どの大学でも受けられる学力をつけ

るのが目標です。出願校の合う合わないを見極めるのは、ある程度学力がついてから。秋以降でいいでしょう。そのときどうしても残ってしまった不得意な部分は克服にも時間がかかります。それを踏まえて受験校対策を徹底的にやりましょう」(長原さん)

試験に特徴がある私立大医学部はどこ？

数学が国語で選択可能な昭和大。数Ⅲを除外した東海大、帝京大、近畿大。英語の配点が高教科の倍という順天堂大。英語と数学(数Ⅲは除外)の2科目で受験できる金沢医科大学(後期)など。しかしこれらの大学は受験者が集まるため倍率も上がりやすい。決して簡単わけではないので注意しよう。



「得意な英語で勝負だ!」いやいやおと待って、それは無謀だから「全教科なんて無理だからこの2科目に合格!」いやそれは無謀だから「数Ⅲがないなら勉強しなくていいか!」いや、他の大学はあるから!……

Q8

医学部受験のための効果的な勉強法は？

A

応用発展問題を解くためにも、基礎固めと原理原則の理解がなにより大切

医学部の試験は難問ばかりかというところでもない。確かに難しい問題もあるが標準的な問題の割合も多く、それを確実に解ける人のほうが合格することがわかっていく。つまり基礎をしっかりと固める勉強をすることが大切だ。まずは教科書レベルの問題ができること。それが医学部特有の応用発展問題を解くためのベースとなる。「得意分野の勉強を進んでやる人は多いのですが、医学部を受けるなら穴をなくすことのほうが大事。苦手な科目や分野のほうにより多くの時間をかけて勉強してください。わからないことを放置するのは一番いけません」(長原さん)

医学部の試験の最大の特徴は、

なんといつても問題量が多いことだ。もちろん知識を身につけることは大切だが、それだけではダメ。大量の問題を時間内に終わらせるスピードと処理能力が必要だ。

「これは地道に訓練しないと身につかないものです。解けたとしても長い時間がかかるようでは本番では通用しません。日頃の勉強から時間の感覚をもって問題を解く習慣をつけてください。問題集に解答時間が書いていない場合は、先生に『医学部を目指すなら何分で解くべきでしょうか?』と聞いてみるとういのですね」(村田さん)

どんなときに間違いやすいか、ミスの傾向を知ることも大切だ。同じミスは繰り返しがちで、なか

なか直らないと村田さんは言う。「できるだけ多くの類題に取り組むことをおすすめします。やればやるだけミスの傾向がわかってくる。また多くの類題に触れることは解答確率を上げることにもつながります。解いたことのある問題が1問と100問では100倍もの差になりますから」(村田さん)

英語

文法と単語力をしっかりと長文に慣れておくこと

英語は学習に時間がかかるので、できるだけ早いうちから積み上げていくほうがいい。最近の傾向として英語の問題は長文読解が多いので、できるだけ長い文章を、速く正確に読めるようにしておく訓練をしておきたい。

「2ページにわたる文章が4〜5問出される試験もあります。入り組んだ構造になっている知的な文章を読み解くには文法も必須です。また受験で挑むのは、何が書かれているかわからない初見の文章です。論説文なのかエッセーなのか

それによっても気をつけるべきポイントが変わります。できるだけ多くの文章に触れて、慣れておく必要があります」(長原さん)

「医療や自然科学に関する文章など、他学部ではあまり出題されない問題が出されることがあるので、内容を理解するためにも社会に関心を持っておくことが大切です。当然、関連する特殊な単語も覚えておいたほうがいいでしょう」(村田さん)

数学

公式がどこで使えるかバツとわかるまで演習を

数学は学習範囲が広く、力をつけるのに時間がかかる。英語と並んで核となる重要な教科なので、中学から意識して積み上げたい。「公式を覚えるだけではダメ。どんな問題でどの公式が使えるか、パツとわかるようになることが必要です」(長原さん)

「問題を解く方法はいくつかある、そのなかでもこれが最短でミスが少なく解けるといえることがはつき

りわかるようになるのが理想です。そのためにはできるだけたくさん類題を解くことです。計算ミスも実力のうち。どんなところでミスしやすいか、自己分析する習慣をつけてください」(村田さん)

理科

大切なのはやはり基礎。まずは理科的常識から

「各教科を勉強する前提として、小学校で習う理科的常識や中学校の授業内容を復習しておくといいですね。簡単なことも意外と忘れてるものです。そのうえで受験勉強に取り掛かったほうがスムーズに進みます」(長原さん)

理科は現役生がとくに弱い科目。現役合格を目指すなら高2までに学校の範囲を終わらせて、残り1年は受験勉強に費やせるように計画したほうがいいだろう。

化学

理論での計算問題と、有機無機での暗記問題がほぼ半々で出題されるのが試験の特徴。まずはしつ

かり覚えることが大切だ。

「難しい計算問題は減っていますが、データやグラフなどを処理する問題が増えてるので対策しておく必要があります」(村田さん)

「数学と同様に、文章題が増えてるので慣れておくこと。読解力を磨いてください」(長原さん)

物理

ほかの理系学部よりは見慣れない内容や、設定がややこしくなっている問題も多い。

「台車が複数あって複雑な計算が必要になるなど、短い時間で多くのことを処理する力が求められます」(長原さん)

「ひねった問題は多いですが、基本的な構造を理解できていればアプローチに困ってしまうことはありません。まずは力学をしつかりと。できるだけ多くの類題に当たって慣れましょう」(村田さん)

生物

生物は医学部が本気になって出題するため、人体、医療、遺伝に関する問題など難問が多く出題される。近年は単純な知識を問う暗

共通テスト

大量の問題をすばやく正確に解く練習を

2025年度から新課程対応の試験内容になるので、まずは変更

記問題より、実験・考察問題など応用発展問題が増える傾向にある。問題も長文化しているので、読み解く力も必要だ。トップレベルの知識を身につけるつもりで学習を。

点をきちんと調べて、それに合った対策をしていくこと。数学と国語は問題数が増え、制限時間は10分延び、配点も変わった。難易度は上がったと考えたほうがいい。共通テストの攻略法はとにかく処理能力を上げること。高校3年の夏前からスピード対策をしつつ問題に慣れておくといいたいだろう。

先生への効果的な質問の仕方とは？

問題の解き方ではなく、解くための考え方を質問しよう。とくに成績が伸び悩んでいるときは、自分に足りない力、弱点はどこかと聞いてみよう。結果、基礎に戻らないといけないとしても、結局はそれが合格への近道だ。



医学部合格の可能性を高める準備と対策

富士学院 学院長 村田 慎一



新課程入試を見据え 積極的な出願が目立つ

少子化は大学入試にも大きな影響を及ぼしており、全体の志願者は減少傾向が続いています。2024年度の共通テストの志願者数は昨年度の51万2581人から2万人以上減少し、49万1913人でした。現役生と既卒生の内訳をみると、現役生が85%以上を占めており、既卒生の割合は年々減り続けています。実際の受験者数をもとに、18年度のセンター試験が約55万人だったのに対して、

24年度は約46万人と、10万人近くも減少しました。これは少子化に加えて、学校推薦型選抜や総合型選抜の枠が増加してきた影響も無視できません。とくに私立大学の場合は、年内に合否が決まり、専願であることが多いからです。

一方、医学部志願者の状況を見ると、国立医学部の一般選抜志願者数は、昨年並みの2万3036人で、前期志願倍率は4.48倍でした。前期志願倍率の全学部平均が2.89倍ですから、医学部人気が高いことは数字の上からもわかります。25年度に新課程入試を控えて

いるため、当初は安全志向の出願になるのではないかと予想していましたが、共通テストの平均点が上昇したことも追い風となり、昨年度とほぼ変わらない出願状況でした。

私立医学部に関しては、志願者数が昨年度より約1万人も増え、4年ぶりに10万人の万台を超えました。昨年度も前年度より約4300人増加しましたが、増加分の大半は共通テスト利用入試の志願者でした。しかし、今年度は一般選抜の志願者が大幅に増えています。

その背景として、大学志願者数が減少するなかで、どうしても医学部に行きたいと考える受験生の数が依然として高い水準にあることが考えられます。私立専願者は、受験スケジュールを立てるなかで、可能性を求めてより多くの大学に出願するようになり、国立志願者も、新課程入試を避ける意味で積極的に私立併願受験に向かったためだと分析しています。

なお、私立医学部に関しては、1人当たりの受験校数は増加傾向にあり、倍率を押し上げていますが、受験者の実数は減少していますから、合格のチャンスは以前よりも広がっています。全国で10校舎運営している富士学院の合格状況をみても、偏差値が50台前半の生徒

からも多くの合格者が出ていますし、60まで広げれば相当数の合格者がいます。これまでの合否データと比較しても、大学ごとの対策をしっかりと行えば、合格の可能性はかなり高くなると思います。

※大学入試センター、各大学HP等、公表されている情報を元に富士学院にてまとめ

新課程入試の対策と 読解力強化がポイント

医学部受験における新課程入試の影響ですが、共通テストにおいては、既卒生に対して経過措置が取られますし、全体的に見て変更点はあるものの、これまでと大きく変わるものではないので、過度に不安になる必要はないでしょう。

ただし、25年度の共通テストで、気を付けてほしい変更点もいくつかあります。まずは国語です。現代文が大問2題から大問3題に増加します。しかも、増加する1題は、データやグラフを参照しながら文章を読み解いて解答する、これまで見たことがない形式の問題です。試験時間は10分間延長して90分になりますが、迅速な情報処理能力が求められます。過去問もありませんから、試作問題や模試などの問題で演習を積み重ねておく必要があります。次に数学です。これまで「数学ⅠA」

は選択問題がありました。新課程では大問4題が必答になります。「整数の性質」は共通テストからは外れています。医学部の二次試験では試験範囲に含まれるため、バランスのとれた学習計画が大切です。

また、新課程では「ⅡB」から「ⅡBC」となり、必答問題と選択問題が各1題増え、昨年の解答問題数4題から6題に増加しています。解答時間は10分間しか延長されていませんから、解答スピードを上げていく演習が欠かせません。

最後は情報です。新旧課程それぞれの問題が準備されます。国立医学部は全大学で受験科目になっており、北海道大学、徳島大学、香川大学を除き配点化されます。配点率や共通テストと二次試験の配点割合も大学ごとで違うので、特に配点が高い大学へ出願の可能性があるので、しっかりと準備しておく必要があります。ただし、いきなり難しいプログラミング等の出題がされる可能性は低いと予想しており、基礎的なことを固めていけば高得点も期待できるのではないかと思います。

国立私立含め、医学部の入試問題は近年、問題文が長文化する傾向が見られ、読解力の重要性が増しています。その意味で、素早く、正確に文章を読み解く練習は欠かせません。

思考力を重視する傾向も顕著ですが、いわゆる難問は減ってきている印象があ

ります。面倒くさい計算や手続きを含めることで、思考力を試しているような部分が目立ちます。

こうした試験問題の変化を考えると、制限時間内に問題を解き切る力がより重要となり、1問の正解やミスが合否に影響を与えます。日頃から時間を意識した勉強を心がけることが大切です。

受験情報の質が 合否を分ける

医学部受験の大きな特徴の1つは、大学ごとに出現傾向が大きく異なる点です。大規模の模試の結果と実際の合格状況があまり連動しないケースが多々見られます。

言い換えれば、大学別の対策をしつかりと行っていく事で、合格の可能性は高まります。科目ごとに異なる「自分の得意・不得意な問題」を見極め、配点のバランスや面接・小論文を含め総合的に相性の良い大学に出願することが重要です。富士学院では、出願に際し、生徒個別に担当講師・職員がチームを組み、あらゆるデータを駆使しながら分析し、出願校選定に心血を注いでいます。

学費の問題で私立医学部を選択肢から除外している受験生もいると思います。近年は給付奨学金を充実させたり、都道府県と連携した修学資金制度などを設定したりしている私立医学部も増えてきています。

たとえば、24年度入試において兵庫医科大学の場合、兵庫県の修学資金制度を活用すれば、学費の3700万円に加え、生活費を6年間780万円出してくれます。また、東北医科薬科大学医学部でも、6年間の実質学費を400万円〜800万円にできる修学試験制度を備えており、国立並み、あるいは私立理系並みの費用に抑えることができます。

こうした枠には、国立志願者を含め多くの受験生が集まりますが、私立医学部では受験科目を4科目に絞ることができ、出題傾向にも特色があるため、相性も含めてしっかりと対策をとれば、合格の可能性も増えるはずです。

合格に直結するのは 「医師になる覚悟」

医学部受験には、相対的に高い学力が求められるのは確かですが、最も重要なことは、医学部入試は「就職試験」でもあるということです。

だからこそ、全ての医学部入試で面接が行われ、医師になるのに相応しいかどうかを判断されるわけです。実際、試験の成績が合格最低点よりかなり高い受験生でも、面接で不合格になっているケースは国立私立問わず、たくさん見られます。

だからこそ、富士学院ではこの面接

指導を大事な取り組みとして早期から行っています。面接指導といっても、どの質問にどう答えるといった指導とは一線を画しています。徹底しているのは「なぜ医師になりたいのか」という問いかけです。医師は「生勉強し続けなければならぬ職業です。医師になる覚悟」がなければ、受験勉強はおろか、医学部に進学してからも、医師になってからも勉強し続けることはできません。

逆にいえば、その自覚と覚悟が固まれば、自分から必要なことをどんどん勉強していくようになります。「何となく」「親が医師だから」……といった中途半端な意識を変え、本気で医師を目指すようになるカリキュラムがあるからこそ、高い合格実績を維持できているのだと自負しています。

医学部入試の本質は医師になるための就職試験であるということに肝に命じ、合格への歩を踏み出してみてください。

医学部受験 富士学院	
富士学院	検索
全て直営校で運営	
東京御茶水校	☎0120-01-9179
東京十条校	☎0120-02-9179
横浜校	☎0120-04-9179
名古屋校	☎0120-9816-33
京都校	☎0120-05-9179
大阪校	☎0120-06-9179
大岡校	☎0120-9179-00
広島校	☎0120-09-9179
福岡校	☎0120-5251-22
鹿児島校	☎0120-66-9179